

大雨に伴う山陰線の被災状況と今後の見通しについて

2023年6月30日からの大雨により鉄道施設に大規模な被災が確認された山陰線(長門市~小串駅間)では、粟野川橋りょう(長門粟野~阿川駅間)の橋脚傾斜を中心に被災原因等の調査を進めてまいりました。この度、調査結果がまとまりましたことから、その内容と今後の見通しについて以下のとおりお知らせいたします。

なお、運転を見合わせている区間については、代行バスを運転しております。ご利用のお客様には引き続き、代行バスのご利用をお願いいたします。

1. 粟野川橋りょうに関する調査結果について

- ・ 橋脚傾斜の原因は、大雨に伴う水位上昇と、それに伴う激しい水流により基礎部の侵食を防止する矢板が損傷したことで、支持地盤の流失から橋脚の沈下・傾斜に至ったものと推定されます。
- ・ 傾斜した橋脚については、基礎部の機能が大きく損なわれており、使用に耐えないと判断しております。
- ・ その他の橋脚並びに橋桁についても、一部の損傷や部分的な変状が認められています。

2. 今後の見通しについて

傾斜した橋脚については改築が必要と判断しており、河川管理者である山口県と仮に復旧する際の河川内工事について、相談をしてまいりました。その結果、工事の通年施行を前提に工期・工事費の縮小が見込めることとなりましたので、今後復旧に向けた具体的な検討を開始いたします。

現時点、粟野川橋りょうの復旧には少なくとも着工後1年半程度の工期が必要と見込んでおります。

また、橋りょう以外の区間での部分的な運転再開に向けた検討も合わせて進めます。

一方で、山陰線のご利用状況は非常に少ない状況にありますので、復旧に向けた検討と合わせて、鉄道としての持続可能性を確保するため、沿線の自治体の方々と相談をさせていただきたいと考えております。